

都市再生整備計画(第3回変更)

に ゆ う が わ
壬生川地区

え ひ め けん さい じょう し
愛媛県 西条市

平成24年12月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	えひめけん 愛媛県	市町村名	さいじょうし 西条市	地区名	にゅうがわ ちく 壬生川地区	面積	82 ha
計画期間	平成 21 年度 ～ 平成 25 年度	交付期間	平成 21 年度 ～ 平成 25 年度				

目標

大目標：駅周辺の新たな拠点整備を行い、駅西地区と駅東地区を結ぶ回遊性の創出による賑わいの再生

目標1 新しい生活拠点として、中央公民館周辺及び壬生川駅周辺の整備を行い、集客力を高める。

目標2 生活拠点間を結ぶ回遊性のある道路整備を行い、来訪者が安心して行動できる環境づくりを行い中心市街地の賑わいを再生する。

目標3 大曲川周辺は、水・緑に親しめる空間整備を行い、中心市街地でありながら自然を生かした環境を守り、住民の憩える空間としたい。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

西条市は、人口約12万人、市域面積509.04Km²で愛媛県の東部に位置し、東予港や四国縦貫自動車道、今治小松自動車道、国道194号などの交通網の整備の進展と併せて、合併により市域が拡大したことに伴い、特急停車駅である伊予西条駅及び壬生川駅をはじめとする7箇所の駅、四国縦貫自動車と今治小松自動車との結節点であるジャンクションや、複数のインターチェンジなど、近畿地域及び中国地域に直結する、広域交通拠点を内包することとなり、四国地域における交通の要衝としての優位性を併せ持っている。人口は過去10年間で0.98倍と微減傾向で推移しているものの、高齢者率は15.5%から25.4%へと、急速に高齢化が進展している。

西条市総合計画において、当地区は西条市の生活拠点市街地として、商店街の再活性化やJR壬生川駅周辺の再整備の事業実施を図るとされている。

また、当計画地は、市の都市計画区域の西部に位置し、県の区域マスタープランにおいては、生活拠点商業地として、駅東地区の拠点商業・業務機能の活性化と駅西地区の新規都市機能の集積による駅東西一体となった地域の中心商業地の形成を図るものとされている。また、市の都市計画マスタープランにおいても市街化の誘導地とされている。

当地区での活性化のイベントとしては、「夏彩祭in壬生川」「東予地区米まつり・魚まつり」などを開催している。

都市再生整備計画の策定にあたり、地元商店街等の提案内容や地元有力地権者と計画に関する協議会を開催してきており、また、西条市総合計画及び西条市都市計画マスタープランなどをベースにし、計画の内容やその進め方についての協議・提案を行った。

課題

近年になって、主要地方道壬生川・丹原線沿いに大手スーパーや大手家電店、飲食店などの集客力のある施設が集合し拠点化している状況である。また最近では、不況と相まって、商店街沿いにおいては空店舗が増加し飲食街においては活気のない状況となっている。旧市の中心市街地であるにもかかわらず、情報案内施設が乏しく、来訪者が安全な回遊ができない状況である。JR壬生川駅前は昭和52年にロータリーが完成して以来の施設状況であるため、歩道舗装などに老朽化が進んでいる。

新しい生活拠点の整備としては、平成19年4月にオープンした「西条市食の創造館」を拠点に、西条の食材を、食料品の原材料として提供する一次産業にとどまらず、二次産業である食品加工や三次産業である流通・観光を一体化した総合産業、六次産業の創出に発展させ、「四国の食料産業拠点・西条」を目指すことを目的として各種の調査・研究の推進を図りたい。

将来ビジョン(中長期)

西条市総合計画では、既成市街地中心部における商店街の活性化及びJR壬生川駅周辺の活性化を目的として、必要な都市施設の計画的な一体整備を図る。県下有数の経営耕地を有する西条市は、出荷量日本一のはだか麦やあたご柿をはじめ、水稲、メロン、ほうれん草、イチゴなど多くの農産物が県下第一位の出荷量を占める大農業地帯です。こうした農水産業が食料品の原材料として提供する一次産業にとどまることなく、二次産業である食品加工や三次産業である流通・観光を一体化した総合産業、六次産業の創出をすすめて、「四国の食料産業拠点・西条」としての食品加工流通コンビナート構想の実現に積極的に取り組むものと位置づけられている。

西条市マスタープランにおいては、市街化誘導地として位置づけられ、東西自由通路を整備することにより、西口方面の県立東予高校及び丹原高校並びに公共施設(東予総合福祉センター・西条市東予総合支所・市民会館・東予体育館・中央公民館・東予図書館・郷土館等)と東口の従来からの市街地を歩いて往来する事が可能となり、今まで線路で分断されていたことによる西口周辺の開発の遅れを取り戻し、西口の定住人口の増加など活性化が図れるものと期待している。東西駅前広場を結ぶ自由通路と連携して、西口の道路整備及び東口の安全・安心歩行エリアの整備を実施することにより、東西の回遊できる空間を創出し、「歩いて暮らせるまちづくり」を実施致したい。

目標を定量化する指標

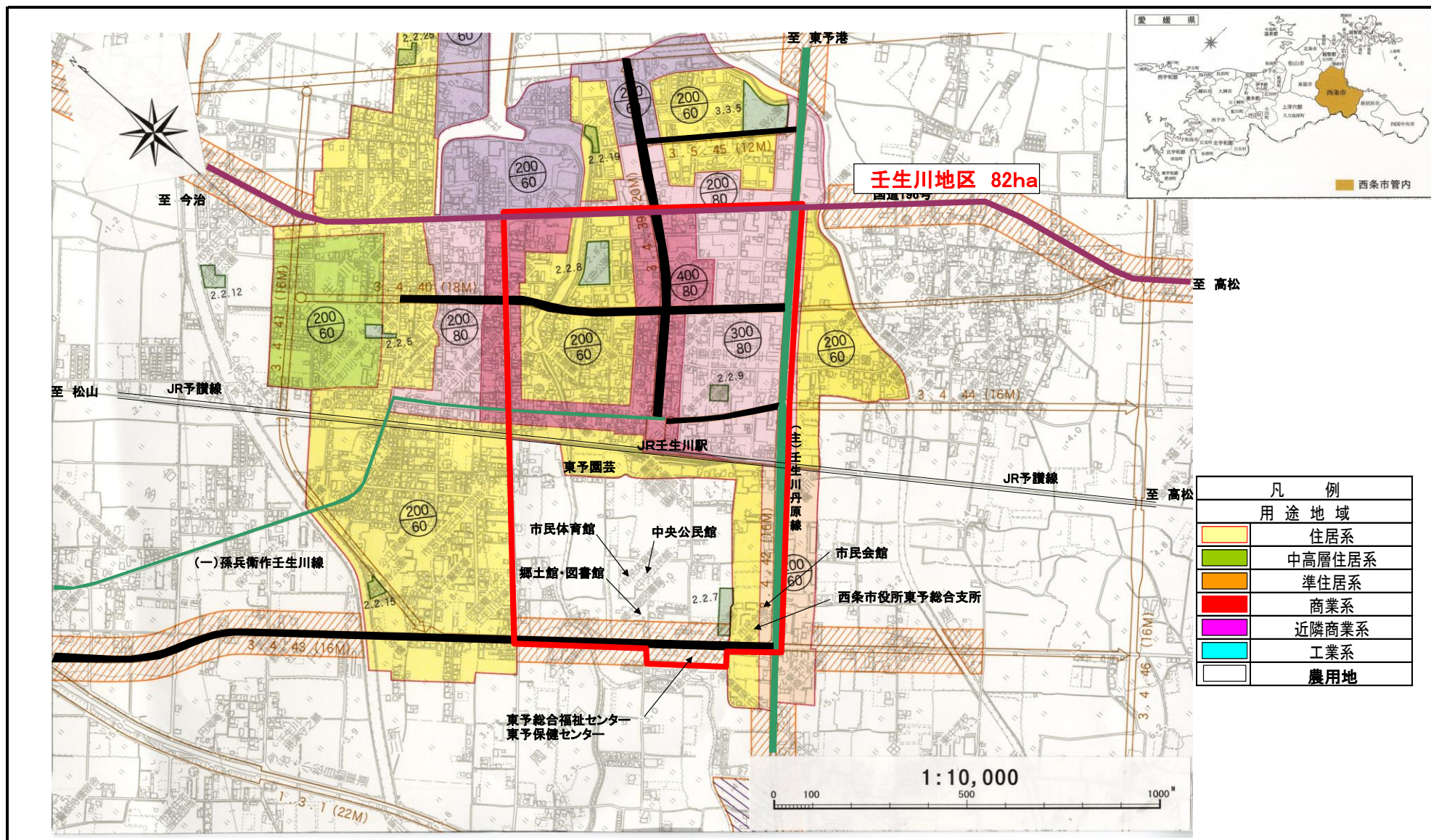
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
駅前通り線・新地北条線交差点の歩行者・自転車通行量	人	交差点の通過交通(12h当り 都市計画整備課調べ)	東西駅前広場を結ぶ自由通路と連携して、西口の道路整備及び東口の安全・安心歩行エリアの実施をすることにより、東西の回遊できる空間を創出し、「歩いて暮らせるまちづくり」を実施するものの指標とする。	681人	20	800人	25
計画区域居住人口	人	居住人口(市民課調べ)	駅自由通路ができることにより、既存の公共施設の集積による歩いていけるまちづくりを進める。また、西地区の道路整備により定住人口の増加を図る。	2,546人	19	2,600人	25
夏彩祭in壬生川及び東予地区米祭り・魚まつりのイベント集客数	人	参加人数(産業振興課調べ)	本事業による整備が中心商店街の活性化につながり、地域住民のみならず来訪者がまちづくりイベントである夏彩祭in壬生川及び東予地区米祭り・魚まつりに多く参加し、活性化の目標として、イベント参加者の増加を調査する。	17,000人	19	17,850人	25

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
整備方針1(JR壬生川駅周辺の新しい生活拠点整備) ・JR壬生川駅周辺の整備としては、本市の西の玄関口に相応しい交通結節点としての広場整備はもとより、既存施設を活かした憩える高質空間整備、観光産業の情報案内やイベントのできる施設整備、食の創造館と総合福祉センター・東予保健センター・東予総合支所・市民会館・中央公民館・東予体育館・東予図書館・郷土館など既存公共施設との連携で歩いて暮らせるまちづくりの新生活拠点施設として新設の駅西口広場及び東西自由通路等を整備することにより、一体化した整備を行う。		JR壬生川駅周辺整備 ・駅前・駅西広場整備(基幹事業／地域生活基盤施設) ・駅前・駅西自転車駐車場整備(基幹事業／地域生活基盤施設) ・市道壬生川駅自由通路東西線(基幹事業／道路) ・街路駅前通り線・街路新地北条線の両歩道高質空間化整備(基幹事業／高質空間形成施設)
整備方針2(生活拠点間を結ぶ回遊性のある道路整備) ・JR壬生川駅周辺及び総合福祉センター周辺を新しい生活拠点として整備と併せてこれらをつなぐコミュニティ道路・歩行空間などの整備により、地域住民及び来訪者が安心して中心市街地を回遊できる環境整備を行うことにより、「歩いて暮らせるまちづくり」の実現化を目指す。		拠点間を結ぶ回遊施設の整備 ・市道北条中城線の整備(基幹事業／道路) ・市道中城三津屋線の整備(基幹事業／道路) ・市道駅西三津屋線の整備(基幹事業／道路)
整備方針3(駅西地区の新しい生活拠点整備に伴い中心市街地の活性化や水・緑による自然環境の保全・創出を行う) ・総合福祉センター・東予体育館周辺整備については、地区の防災拠点としての役割を担いつつ、大曲川の隣接地としての特色を生かし、自然とふれあえる緑化施設等を整備することにより、水・緑による自然環境の保全・創出を行う。		東予総合福祉センター周辺整備 ・大曲川遊歩道整備(基幹事業／道路)
その他		
○食の創造館(食の情報収発信拠点) 食材PR(食材の優位性、食の情報収集・発信) うちめきの水、石鎚山、道前平野、燗灘に代表される、恵まれた自然環境で育成された西条の農産・畜産・水産物のPRを目的とする。 ・野菜ソムリエ等との連携による地域食材のPR ・地元をはじめとした、関西、関東メディアへの情報発信活動 ・生産者、流通業者などへの食材価値の再認識とPR ・食材産業関連の情報収集等		
食関連地場産業の育成(食のインキュベーション) 西条市の上質な食材に、さらなる付加価値を高めるため加工技術の開発及び新商品開発、さらには食産業(食品加工業等)の育成・支援を行う。 ・加工技術の開発及び社会ニーズに応える新商品開発 ・商品開発、市場分析、販売方法などのアドバイス及び実施支援 ・他地域の成功例情報収集 ・加工品製造業者間での情報収集、他地域の加工品評会などの開催等		
食育(食関連産業従事者の育成・食文化の向上) 若年層を中心とした市民に、地元食材の価値を浸透させ、将来、地元食関連業務に携わることで西条への定住を目指していく。 ・地元食材を使った料理教室の開催 ・著名な料理人やパティシエによる料理講習会やトークイベントの開催 ・生産者訪問や都市の有名料理店やカフェなどの視察実施等		
地域再生計画に認定されている「西条市食品加工流通コンビナート構想」を推進して、農水産品の生産と製造・加工及び流通を一体化した新しい事業形態の創出をすると共に、水資源や自然環境などの地域の特性を活かした新規産業の育成にも取り組んで行きたい。		
○まちづくりイベントの継続開催及び新規イベント企画立案 中心市街地の活性化対策としては、「夏彩祭in壬生川」や「東予地区米まつり・魚まつり」などのイベントを盛大に行い、地域住民及び来訪者を商店街へ引き込む努力を行う。このため「東予商店街まちづくり協議会」や「東予中心商店街活性化研究会」などの組織活動を活発にし、新しい企画に取り組む予定である。また、商店街活性化施設の事業計画については今後も「中心市街地活性化チーム」で継続的に検討する。		
○官民協働の水・緑の保全について 地域再生計画に認定されている「西条市カプトガニ天国再生計画」に基づき西条市立東予郷土館を中心とする保護活動がされている。 [地域再生計画の概要] 愛媛県西条市の沿岸、とりわけ東予地区、丹原地区の河川が注ぐ瀬戸内海燗灘の海岸は、自然に恵まれ、「カプトガニ天国」と呼ばれるカプトガニの繁殖地であったが、高度経済成長に伴う海岸の埋め立てや生活排水による汚染の影響により絶滅寸前の状態にある。このため、保護活動を推進するとともに、汚水処理施設整備交付金を活用して汚水処理施設の整備を進め、小河川の水質汚濁を防止することにより、「カプトガニ天国」の再生を目指し、これをもって市が掲げる「人がつどい、まちが輝く、快適環境実感都市」の実現を目指す。 また、計画区域における駅前ロータリーや商店街においては、街美化パートナーによる清掃や花いっぱい運動などの保全活動を積極的に官民協働で実施していく。		
○交付期間中の計画の管理について 交付期間中において各種事業を円滑に進め、目標に向かって確実に効果をあげるために「駅正面線・北条新地線交差点の歩行者・自転車通行量調査」、「計画区域居住人口調査」、「夏彩祭in壬生川」や「東予地区米まつり・魚まつり」などの参加人員調査を行い、その結果については、随時、市民に情報公開する。		

都市再生整備計画の区域

にゅうがわちく えひめけんさいじょうし 壬生川地区(愛媛県西条市)	面積	82 ha	区域	三津屋南と三津屋・北条・周布の一部
--------------------------------------	----	-------	----	-------------------



壬生川地区(愛媛県西条市) 整備方針概要図

目標	駅周辺の新たな拠点整備を行い、駅西地区と駅東地区を結ぶ回遊性の創出による賑わいの再生	代表的な指標	駅前通り線・新地北条線交差点の歩行者・自転車通行量(人)	681	(H20年度)	→	800	(H25年度)
			計画区域内居住人口(人)	2,546	(H19年度)	→	2,600	(H25年度)
			夏彩祭in壬生川及び東予地区米祭り・魚まつりのイベント集客数(人)	17,000	(H19年度)	→	17,850	(H25年度)

